

いもち病抵抗性に優れる イタリアンライグラス新品種「さちあおば」

山口県農業試験場 牧草育種指定試験地

1 はじめに

イタリアンライグラスは家畜への栄養価や嗜好性の高いイネ科の牧草で、県内の畜産農家で広く栽培・利用されています。しかし、近年、イタリアンライグラスにいもち病が多発し、大きな被害が生じるようになりました。そこで、農業試験場では、国の指定試験地として、いもち病抵抗性品種の育成に約10年余り取り組み、日本初の抵抗性品種「さちあおば」(農林19号)を開発しました。「さちあおば」は、もう一つの重要な病害である冠さび病に

も強い抵抗性を併せ持ち、極早生品種のなかでは収量性が優れているため、県内の農家の皆さんが安心して作ることができます。

ここでは「さちあおば」の特性と栽培上の留意点についてご紹介します。

なお、種子は平成16年夏に市販される予定ですが、発売時期や栽培利用法などの詳細については、農業試験場育種開発部作物育種グループ(牧草育種指定試験地)までお問い合わせ下さい。

表1 「さちあおば」の主な生育特性と飼料特性

品 種 名	出穂期 (月・日)	病害抵抗性		草型	倒伏 程度	乾物 分解率 (%)
		いもち病	冠さび病			
さちあおば	3.19	中	強～極強	4.0	2.3	66.8
ミナミアオバ	3.25	極弱	中	4.4	2.0	58.3

注1) 倒伏程度：1(無)～9(甚) 草型：1(直立)～9(ほふく)

注2) 乾物分解率：年内刈取草について、0.2%セルゼと0.01% -アミラゼ'を用いた方法。セルゼ'による分解時間は17.5時間。



写真1 「さちあおば」の草姿



写真2 いもち病罹病程度

左：ミナミアオバ(罹病性)
右：さちあおば(抵抗性)

2 「さちあおば」の特性

1)10月播で3月中～下旬に出穂する極早生の2倍体品種です。既存の極早生品種である「ミナミアオバ」より6日前後早く出穂します。9月播では、12月上旬までに出穂始めに達します(表1)。

2)稈長は90cm程度、草型は中間～やや直立型です。葉長、稈径などの形態は「ミナミアオバ」と似ています(表1、写真1)。

3)いもち病抵抗性は“中”であり、既存品種が“極弱～弱”であるのに対し、明らかに高い抵抗性を示します。冠さび病抵抗性も極めて強く、西南暖地で重要な両病害に対する複合抵抗性を備えています。耐倒伏性は「ミナミアオバ」と同等です(表1、写真2)。

4)9月播による乾物収量は「ミナミアオバ」に比べて、年内草、春再生草ともに高く、年内草の消化性も優れています(表1、図1)。

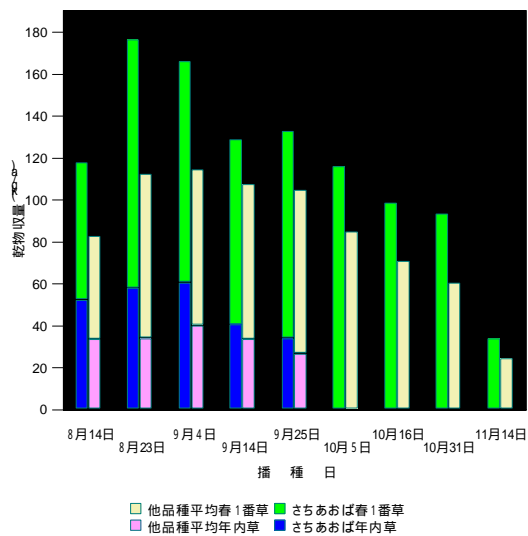


図1 年内草と春1番草の合計乾物収量

3 栽培上の留意点

1)栽培適地は西日本全域に及びます。特に、いもち病の被害が生じやすい本県や九州地域で高い能力を発揮します。

2)いもち病抵抗性があるため、従来の極早生品種より2～4週間ほど早い9月上旬からの早播が可能で、9月下旬までに播種すれば年内にも収穫できます。また、10月に播種した場合も、翌春に多収が期待できます。夏作物と上手に組み合わせて利用してください(表3)。

3)発芽直後の苗立枯れ症には必ずしも強くないので、8月播種は避けてください。

(担当：小橋健、藤原健、水野和彦)

表3 「さちあおば」の作付体系

	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
9月播	~	~	~	—————						×	~	~	×	—————						×	~	~	×				
				年内草									春1番草														
10月播				~	~	~	—————						×	~	~	×	—————			×	~	~	×	—————			
													春1番草						春2番草								

播種、×刈取